

平成27年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

日本型養豚のための純粋種豚改良・生産を支える6次産業化の展開

○氏名又は名称 有限会社 星種豚場（代表 星 正美）

○所在地 栃木県那須郡那珂川町

○出品財 経営（養豚）

○受賞理由

・地域の概要

那珂川町は栃木県の東北東に位置し、総面積は192.78km²で、県全体の3%を占めている。気候は典型的な内陸型であり、年間を通じて比較的温暖な環境である。農業生産は水田単作が中心であるが、生産額では畜産が約半分を占めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

星種豚場は純粋種豚を改良・生産する指定種豚場として46年間の実績があり、デュロック種を中心に全国規模で純粋種豚と精液の供給を行っている。デュロック種の飼養頭数は種雄豚70頭、種雌豚120頭であるが、種豚として需要のない雌豚の肥育を行い、精肉やハム・ソーセージの販売及びレストランでの豚肉料理の提供によって、種豚の評価をモニタリングし、豚肉資源の付加価値を高める6次産業化を展開してきた。

・受賞者の特色

（1）改良への取り組み

- ① 国産豚の生産に最も利用されているデュロック種で、サシやアミノ酸組成等の数値による肉質の客観的評価を種豚改良に取り込んでいる。さらに、レストランでの顧客の声を種豚生産部門にフィードバックして、消費者が求めるよりよい肉質の豚肉生産のための種豚供給を追求している。
- ② 日本養豚協会が実施している能力評価に当初から参加し、超音波測定器を用いた背脂肪厚等の測定により種豚をグループ分けし、肥育経営によって異なるニーズに対応した供給体制を構築している。

（2）新技術への取り組み

平成6年に個人ではさきがけとなる人工授精センターを開設し、米国の大手豚精液販売企業との技術提携、精液保存チューブの改良、養豚農家への人工授精技術の指導に取り組むなど、人工授精の普及に尽力している。また、大学等と連携して遺伝子解析による新しい改良手法を開発するプロジェクトにも参加している。

（3）6次産業化と地域への貢献

デュロック種雌豚を活用した食肉加工、レストラン、精肉販売といった6次産業化を展開し、経営資源を有効に活用した安定的な経営を実現してきた。農場・食肉加工場・レストラン等での地元雇用の創出などによる地域への貢献も非常に大きく、過疎化が進む農村地帯において、就業時間帯の限られた女性の雇用の受け皿となっている。

（4）社会への貢献

経営主は（一社）日本養豚協会の代表副会長として日本型養豚を確立するために活動し、社会的な貢献も大きい。

・普及性と今後の発展方向

6次産業化によって得られた情報を種豚の高付加価値化に結びつけ、一貫経営のニーズに合った種豚を販売するというモデルは、種豚生産農家だけでなく一貫経営農家にとっても経営の安定化のモデルとして参考になる。今後も、新技術と地域資源を活用して、更なる経営の向上が期待できる。